

I 研究主題

自ら考え 伝え合う子どもの育成

～言葉に着目して論理的に考える学習活動を通して～

II 研究目標

自ら考え、共に伝え合う子どもの育成をめざし、国語科において論理的に思考する学習活動を位置付けた指導のあり方について授業実践を通して明らかにし、学習指導の改善を図る。

III 研究の視点及び内容

1 研究の視点

「自ら考え 共に伝え合う子ども」を育成するために、国語科「読むこと」を中心に、
・子どもたちが、主体的に読んだり書いたり伝えたりする授業
・子どもたちが、言葉に着目して論理的に考え、学びを深めたり広げたりする授業
を目指す。その実現に向けて、次の視点で授業改善を図る。

重点1 子どもたちが主体的に学習するための授業づくり

重点2 言葉に着目して論理的に考え、伝え合いを通して考えを深めるための工夫

① 既存の知識・技能の確認場面を設け、学んだことを生かす。

★重点1に関わって

【重点1】子どもたちが主体的に学習するための授業づくり。

研究主題「自ら考え」を「主体的」と同義とし、学習の見通しもって意欲的に学習することと、自分の学びを自覚し、活用しようとすることを目指す。

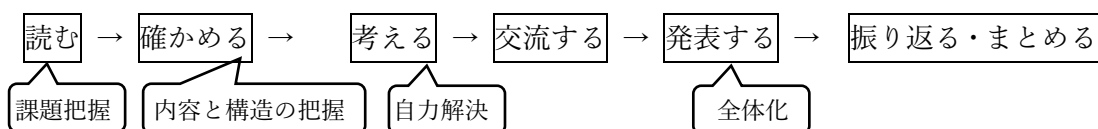
(1) 単元計画・単位時間の流れの明確化

① 学習の見通し

(1) 学習計画の提示と既存の知識・技能の活用

付けたい資質・能力や指導事項を明確にし、課題解決の過程を重視した単元を構想する。
学習計画や単元のゴールの姿を提示し、児童と共有する。

(2) 学習の流れの明確化



② 学習課題

- ・児童の初発の感想やつぶやき等を取り入れた『考えがいがある』課題設定
- ・「活動課題」「内容課題」を使い分けた『やるべきことが分かる』課題設定

(2) 学びの自覚や活用につなげる振り返り

① 振り返りの視点を提示し活用する。

振り返りの視点は、どんな学習でも共通して使えるものにする。学習場面やねらいに即し、必要に応じて取り入れる。

Ex 単位時間… 学習を通して分かったこと、身に付けたことの確認や学習感想（文章を読んで感じたことや自己の変容、友達の良さなど）

単 元 … どんな力が付いたか。ゴールの姿に近づいたか。

② 学んだことの有用感を実感させ、汎用につなげる。

○自分と違う考えに触れることや、考えを追加、修正したことの良さを実感させる。

○学習後、学んだことや使った技能をどんなことに生かせそうか考えさせる。

★視点2に関わって

【視点2】言葉に着目して論理的に考え、交流を通して考えを深めるための工夫

(1) 言葉に着目する方法の明確化

- ① サイドライン等（色分けや囲み線、矢印・関連づけ、抜き書き、言い換え）
- ② 音読・動作化（どう読みたいか考える、動きをつけてみる）
- ③ 書き抜き（表にまとめる、考えや解説を加える）
- ④ 要約等（短くまとめる、見出しをつける）

(2) 交流のしかたの工夫

① 着目した言葉や文章をもとに「考え・理由・根拠」を明らかにする

・考え・・・自分の考え

「わたしは、ごんは幸せだったと思います。」

「ぼくは、ごんは残念な気持ちだったと思います。」

・根拠・・・考えをもつに至った根拠となる叙述や挿絵、データ（共有できるもの）

「うなずきました。」と書いてあるからです。

「ぐったりと」と書いてあるからです。

・理由・・・根拠となるものを選んだ理由になる、自分の知識や経験

「うなずくというのは納得したときだと思うので、分かってもらえたと感じたと思います。」

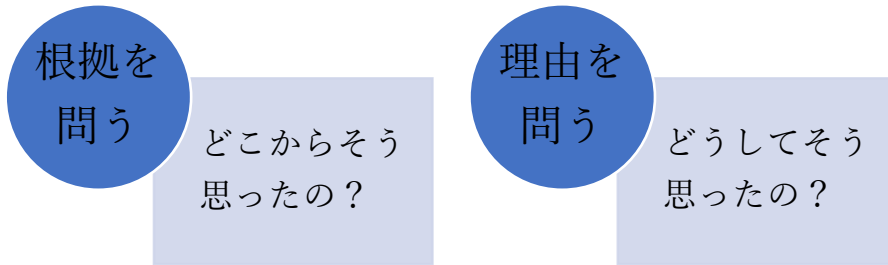
「ぼくだったら、せっかつぐないをしてきたのに撃たれるなんて・・・と思うので、残念な気持ちでいっぱいだと思います。」

※ 学年の発達段階に合わせた指導を行い、その良さを価値づける。

低学年では、「考え」「根拠」までを指導する。「考え・根拠・理由」の用語は、児童に無理して指導しない。

② 教師の関わり

・「精査・解釈」「自分の考えの形成」「交流」場面において、教師が意図をもって児童に関わることや、児童同士の関わりを通して、論理的思考を促す。



- ・国語科以外の学習でも論理的思考に基づいた話し方を意識させる。
- ・交流や学び合いにおける教師の役割

- | |
|---------------------------------|
| (1) 話し合いの方向が課題とずれてしまった場合の助言や修正。 |
| (2) 事前のノートや発言から学習者の考えを把握し、生かす。 |
| (3) 学習者から「?」「!」を引き出す工夫をする。 |
| (4) 教えるべきことは教える。 |

③ 交流の形態の工夫

	例				
人数	ペア	3人組	グループ (4人以上)	ワールドカフェ	
交流ツール	ノート	ワークシート	付箋紙	模造紙	ロイロノート
交流の目的	考えを話す・聞く・感想をもつ		考えを明確にする	自信につなげる	
	同じ考えの人と話す	違う考えの人と話す	多用な考えを聞く		
	意見をまとめる (集約)	アドバイスする (修正)			

IV 研究の方法

- 1, 研究内容に基づいた授業実践
- 2, 講師, 文献等による理論研究。先進校視察。
- 3, 日常の観察, 記録の収集

V 研究の経緯

令和5年度の授業実践のポイント

【視点1】に関わって、

- 目的意識をもって学習に取り組む手立て
 - ★学習計画を掲示したり、単元のゴールを提示したりして、児童の目的意識を喚起する。
 - ★単位時間の学習の流れを固定化し、児童が主体的に活動できるようにする。
- 自分の学びを自覚するための手立て
 - ★振り返りの視点を共有し、常時活用することで学びの自覚を習慣化する。

【視点2】に関わって

- 言葉に着目して論理的に考えるための手立て
 - ★手立てを活用した授業の継続、児童が手立てを思考ツールとして使いこなす指導。
 - ★「考え・根拠・理由」の論理的な思考のしかたを意識させる。
 - 発問、教師の関わりの工夫
- 学びを深めたり広げたりするための手立て
 - ★聞き方、話し方の指標を設定し、交流による学び合いの活性化を図る。
 - ★振り返りを生かして、自己の変容や学習の成果を確かめる。

令和6年度の授業実践のポイント

【重点1】に関わって、

- 単元計画・単位時間の流れの明確化
 - ★学習計画の中で、既習を生かせそうな場面を確かめ、学びのつながりを意識させる。
 - ★単位時間の学習の流れを浸透させ、学びの主体が児童になるようにする。
- 学びを自覚や活用につなげる振り返り
 - ★振り返りの視点を使って学びの自覚や自己の変容の実感、学習したことの有用感などを得られるようにする。
 - ★具体的な活用場面を想定させ、汎用につなげる。

【重点2】に関わって

- 言葉に着目する方法の明確化
 - ★児童が言葉に着目する方法を思考ツールとして使いこなす指導。
- 交流のしかたの工夫
 - ★交流の話題設定や形態・交流ツールの工夫をすることで、活性化を図る。
 - ★交流を経て取り入れた新たな考えや、語彙などを「残す」工夫。
 - ★目的を明確にした交流と、交流の活性化を図る。

VI 年次計画

年 次	目 標	研 究 内 容
1 年次 (令和 4 年)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 自ら考え、共に伝え合う子どもの育成 ↳言葉に着目して論理的に考える授業づくりを通して↳ </div> <ul style="list-style-type: none"> ○研究の土台づくり ○児童の基礎力育成① ○研究の視点に沿った手立ての実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の基本的な考え方の共通理解 ・指導案の形態の検討 ・学習規律（聞き方、話し方、用具）の確認と徹底 ・どの子ども自分の考えをもつことができる指導 ・「伝える」場の設定、意識の向上 →他教科との関連指導 ・実践的検証（研究授業、日常指導） ・指導のねらいに合わせた手立ての活用 ・実践記録集の作成
2 年次 (令和 5 年)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 自ら考え、共に伝え合う子どもの育成 ↳言葉に着目して論理的に考える授業づくりを通して↳ </div> <ul style="list-style-type: none"> ○研究の継続 ○児童の基礎力育成② ○研究の視点に沿った手立ての実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の研究内容の継続と工夫、改善 ・指導案の形態の確立 ・学習規律（聞き方、話し方、用具）の確認と徹底 ・根拠や理由とともに、論理的に自分の考えを作っていく指導 →他教科との関連指導 ・双方向型の交流への移行 ・実践的検証（研究授業、日常指導） ・手立ての見直しや新たな手立ての構築 ・実践記録集の作成 ・研究紀要の作成
3 年次 (令和 6 年) 学校公開研究会	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> 自ら考え、伝え合う子どもの育成 ↳言葉に着目して論理的に考える学習活動を通して↳ </div> <ul style="list-style-type: none"> ○研究の継続 ○児童の表現力育成 ○研究の視点に沿った授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの研究内容の継続と工夫、改善 ・学校公開研究会での実践発表 ・交流場面で言葉や文を根拠に自分の考えを表現できる児童の育成 ・他者と関わりながら、考えを深めたり広げたりする指導 ・学びを自覚し活用する意識の向上 ・実践的検証（研究授業、日常指導） ・手立ての見直しや新たな手立ての構築 ・実践記録集の作成

